

警察功労 瑞宝双光章受章おめでとうございます
前川典義さん

前川さんは昭和42年に警察官となり、機動捜査隊や滋賀県警察本部捜査第一課などで強盗や各種犯罪事件の解決に尽力されました。また、警察学校教官としても多くの生徒を育ててこられました。前川さんは、「教官としてたくさんの生徒とともに過ごした時間がとても良い思い出です」と当時のこととお話されました。

今回の受章について「これもひとえに、家族や職場の仲間の支えのおかげです。これを励みに、健康に気をつけて、お世話になった人たちへの感謝を忘れず一層精進していきたいと思います」と語られました。

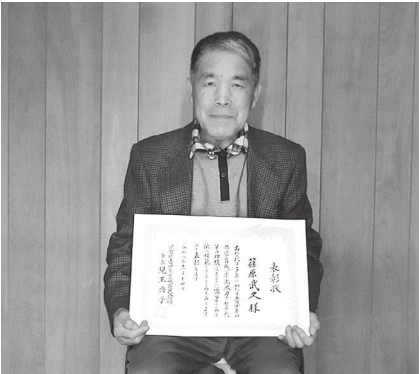


青少年育成県民会議顕彰受賞おめでとうございます
篠原武久さん、小川宏太さん、福島正典さん

篠原さんは、地域内通学路の環境美化に取り組んでおられます。

小川さんは、青少年部門における市で初めての受賞者で、三雲まちづくりセンターで行っている「おばけ大会」の実行委員を務めておられます。また、自身が高校3年生のときに立ち上げた湖南省と甲賀市の高校生ボランティアチームでも活動を続けておられます。

福島さんは、三雲青少年育成学区民会議会長として組織改革に取り組み活動を続けておられます。



篠原さん



小川さん



福島さん

秋季善行表彰受賞おめでとうございます
岩崎照子さん

岩崎さんは、25年の長きに渡り特別養護老人ホーム美松苑で使用するウエス作りの活動を続けてこられました。ご自身の経験から恩返しの気持ちでボランティアを始められ、施設の人たちの散髪や洗たく、ウエス切りなどをしてこられました。今では、他施設で子どもたちへ本の読み聞かせを行うなど、ボランティア活動は多岐に渡ります。岩崎さんは「家族や地域の人、仕事仲間の助けがあったので、気負うことなく続けていくことができました。感謝します。これからもできるかぎり続けていきます」と語られました。



ウツクシマツを元気に！
三雲小学校児童がウツクシマツ自生地を清掃しました

11月27日、晴天の中、令和4年に甲賀市を会場に開催される第72回全国植樹祭に先駆け、三雲小学校6年生と市職員などの関係者でウツクシマツ自生地愛護活動が行われました。松と共生している菌は落ち葉に弱いことを事前に学んだ子どもたちは、自生地の落ち葉かきを一生懸命に行いました。



医療従事者の皆さんへ
NPO法人SOCIARU GUARD様から不織布マスク
寄贈

10月27日、NPO法人SOCIARU GUARD様から不織布マスク100枚を寄贈いただきました。いただいたマスクは、新型コロナウイルス感染症対策のため医療従事者へ配付し活用させていただきます。

人権シリーズ

自然の中でゆっくりと心豊かに生きてきた先住民族アイヌの人々

「その昔この広い北海道は、私たちの先祖の自由の天地でありました。」これは1923年(大正12年)に出版された「アイヌ神謡集」の序文の書き出しです。知里幸恵(ちりゆきえ)というアイヌの女性が17歳の時に、アイヌ民族のあいだで口伝えに謡い継がれてきた叙事詩(ユーカー)をローマ字で音を記し、日本語訳をつけました。この「アイヌ神謡集」は英語やフランス語にも訳され、アイヌ文化の素晴らしさは世界に広まりました。

しかし、近世以降のいわゆる同化政策などにより、今日では、その文化の十分な保存・伝承が図られているとは言い難い状況にあります。自然とともにおおらかに生活し続けたアイヌの人々は、日本社会のマイノリティ(少数者)として差別の中で生きることになりました。

2019年(令和元年)アイヌ新法「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に

関する法律」が制定されました。この法律において初めてアイヌ民族が「先住民族」と明記され、アイヌであることを理由とした差別の禁止が定められました。

日本の主な人権課題の一つとしてアイヌの人々に対する理解を深め、偏見や差別をなくすることが必要です。

今年は、子育て支援学級で小学生の子どもたちがアイヌの人々について学びました。みんなでアイヌ文様の切り絵に挑戦しました。この文様には、たがいの「いのち」を気遣いながら生きていくことの大切さが込められています。

《今月は人権擁護課が担当しました》

アイヌ文様の切り絵